

平成29年度施政方針

記憶に残るまち播磨町

平成29年3月定例会において、町長が述べた平成29年度施政方針演説の冒頭を掲載します。

▼問合せ 企画グループ ☎079(435)0356

はじめに

我が国を取り巻く環境は、米国の新政権誕生に伴う施策転換、英国のEU離脱問題、先進国の政情不安など国際情勢が大きく変動し、先行きの不透明感が高まっており、今後、その影響が地方に波及することが懸念されることとあり、国の動向を注視してまいりたいと思っております。

国内においては、人口減少や高齢化問題、子育て環境の変化、現役世代の先行きの不安等から、個人消費をはじめとする民間需要はその力強さを欠いた状況が続いており、地方においては未だ地域経済の好転が実感できない状況にあります。

昨年10月に発表された「平成27年国勢調査確定値」において、国

の総人口は「大正9年の調査開始以来、初めての減少」という結果となり、いよいよ人口減少が現実のものとなってまいりました。今後、このまま少子化が続けば、生産年齢人口も減少し、経済の成長にとつて大きなマイナスとなり、経済規模縮小へと繋がり、社会保障制度をめぐる様々な場面においても厳しさが増してくること

が危惧されております。しかしながら、本町においては、幸いにも「人口」「世帯数」ともに前回(平成22年)を上回る国勢調査の結果となっております。今後、もさらに魅力あるまちづくりを推進し、人口の確保、まちの発展に努めてまいりたいと考えております。

本町の平成29年度当初予算について、歳入は、主要財源である方式での実施が、調理・配食・建設費・管理・運営等で一番適しているとの結論を得ました。今後この方針に基づき、順次全小学校給食棟の改築、改修工事を進めてまいります。本年度は基本設計を行い、ドライ方式による安全で安心できる給食の提供に努めてまいります。

豊かな心と人を育むまちづくりを進めてまいります

子どもは「まちの宝」という基本姿勢に則り、播磨町「教育大綱」、「教育振興基本計画」に基づき、教育現場でのニーズに対応したきめ細かな配慮で、教育活動のさらなる充実に努めてまいります。

町内すべての幼稚園において、「二時預かり保育」事業を開始いたします。保護者それぞれの事情を考慮し、希望される場合に午後4時までお預かりいたします。また、年々厳しくなる夏の暑さ、冬の寒さ対策として、幼稚園、小学校、中学校全教室にエアコン設置を進めてまいります。幼稚園・中学校については今年度設計、小学校については来年度設計し、順次工事を行うてまいります。

昨年結成いたしました「サポートチーム播磨」では、学校生活サポートターの配置とともに「地域ボランティア」のご協力をいただきながら、よりよい学習環境を構築してまいります。

老朽化が進む小学校の給食施設、中学校給食の今後のありかた等についての、調査・検討を行うてまいりましたが、中学校の給食を小学校で一緒に調理する「親子



老朽化のため工事を予定しております。播磨小学校南校舎、「播磨南小学校校舎」「播磨南中学校東校舎」の大規模改修工事や、「播磨中学校プール」改築工事につきましても、国の補正予算として平成28年度中に採択されたことから、29年度に繰り越して工事を実施し、安全で快適な学習環境に努めてまいります。

町税が法人町民税の落ち込みにより前年度より2・6%、1億4千万円の減収を、また、地方消費税交付金についても国の動向を踏まえ、前年度より23・3%、1億3千7百万円の減収を見込むなど町財政を取り巻く環境は厳しい状況となっております。

また、歳出においても、少子・高齢化対策をはじめとした社会保障関係費、生活環境の整備、安全・安心なまちづくりへの対応など、経常的な経費は年々増加しており、さらに学校施設、老朽化した公共施設やインフラ施設の大規模な改修工事の実施など、多額の経費を必要とする事業が今後も予定されております。

このような状況の中で、平成29



年度の予算編成にあたっては、「第4次播磨町総合計画」をはじめ、「第4次播磨町行政改革大綱」及びこれに基づく具体的取組を示した「行政改革実施計画」を推進し、制度・施策の優先順位の選択を行いました。また、喫緊の課題である事業には重点的・積極的に取り組む予算を編成してまいりました。

それでは、「平成29年度施政方針」について、第4次播磨町総合計画の5本の柱に沿って所信を述べさせていただきます。

昨年工事を実施した蓮池小学校のプールについては、播磨小学校同様一般開放し、子どもたちや地域の方々にも水に親しむ機会を提供してまいります。

町制施行55周年の関連行事として、今年創立50周年を迎える「播磨町文化協会」の記念行事や、今年開催地となる「東播磨選抜美術展」など、文化団体等が行う行事に対しても、周年事業として支援してまいります。また、スポーツにおいても毎年多くの参加者を得て開催される冬のイベント「ロードレース大会」においては、著名なゲストランナーを招致し大会を盛り上げてまいります。

今年は大中遺跡が発見されてから55年、国の史跡に指定されてから50年という節目の年を迎えます。雨天時のぬかるみを解消するための園路改修も終わり、「大遺跡まつり」、「はりま風薫るフェスタ」などのイベント時において、天候に左右されることのない快適な環境での開催を目指します。また、遺跡内でAR(拡張現実)アプリを活用して古代の疑似体験もしていただけるようになったことから、より魅力的な観光資源として、大切に守り継いでまいります。

播磨町の先覚者「今里傳兵衛」。新井を開削してこの地に恵みをもたらしたその功績をアニメ映像にて制作し、子どもたちや多くの方々に見ていただき、顕彰し、深い郷土愛を育てます。

やすらぎがあり、健やかに暮らせるまちづくりを進めてまいります

すべての子どもは、両親や社会に祝福されて誕生し、温かい庇護のもと育てられるべきだと考えます。大人になった時まで残る誕生の記録の一つとして、誕生から歳までの赤ちゃんに対し写真スタジオで撮影を行い、台紙付きの写真をプレゼントする「はりまフォトバースデイ事業」を実施します。年月を経て、親子で誕生時の喜びの記憶を再現する一助ともなればと思っております。また、子どもの誕生を祝って「記念樹」を配布いたします。各ご家庭で植樹をしていただくことで、緑化意識の向上にもつながればと思っております。

また、20年ほど前に子育て中のお母さんたちが、3年をかけて制作した手づくりの「子育てカルタ絵本」を復刻いたします。子育てを通じて得た感動体験やわが子への限りない愛にあふれた「子育て

てカルタ」を母子手帳交付時に父子手帳ともにお渡しし、より深い親子愛を育んでいただければと思います。

生まれる前からの支援として特定不妊治療、一般不妊治療、不育症治療への助成、妊娠期への支援として「はりまここのとりたワシー事業」、各種予防接種、妊婦健診、歯科検診などを行っておりますが、本年より産後のケアとして乳房マッサージ費用の助成や、家事・育児援助を行う「ホームヘルパー」の派遣などを行い、「こんにちは赤ちゃん事業」や「新生児訪問」などにも安心して出産・子育てができる環境を整えてまいります。また、子育てなどでなかなか検診や受診機会がない世代に対して、幼稚園やコミセンなどで希望者に無料で血液検査を実施し、健康に留意した生活習慣を支援してまいります。さらに集団検診において、女性特有のがん



検診に対しての個人負担金を引き下げそれぞれ1千円とし検診率の向上を目指してまいります。昨年からの設置しております「子ども窓口」、子育て支援センターなどを核として、子育てに寄り添い、楽しい子育てを応援する施策をさらに充実させてまいります。

播磨町が実施している多くの子育て情報の紹介や相談・体験コーナーなどを堂に集めた「ベビーフェスタ」を開催し、子育て事業の周知を図ってまいります。保育園につきましては、認定こども園の実施、病後児保育、時預かり、延長保育などの事業展開をしているところですが、本年度から町内保育園での保育士確保のための補助金を交付して、待機児童解消に努めてまいります。保護者への経済的支援として、保育料の多子世帯保育料における町独自の軽減制度や中学3年生までの医療費の無料化などを引き続き行なってまいります。

児童保育につきましては、播磨小学校に1学童、播磨西小学校に2学童、蓮池小学校に3学童など、それぞれのニーズに応えて順次増築してまいりましたが、本年は播磨南小学校に新たな施設を建設し2学童にて対応してまいります。就学援助事業の新学期用品費

し、住民の意識啓発に努めてまいります。避難所ともなる各小学校においても「防災備蓄倉庫」を計画的に整備してまいります。なお、本年度は宮城県山元町へ再度職員1名を派遣し、被災地支援を行ってまいります。また、住宅リフォーム、太陽光発電装置設置につきましても、継続して助成してまいります。日常的な防犯対策などとして、防犯カメラやAEDの設置、街灯のLED化等については希望される自治会へ引き続き補助してまいります。昨年から進めておりましたコンビニのAED設置につきましても、近口完了する予定です。年々増大する消費者問題については、役場内に「消費生活センター」を設置し、相談口をさらに拡大して対応してまいります。

水田川につきましても、県事業であります。町としても長年の懸案事項であり、国・県に要望を重ねてまいりましたが、このたび第2工区の用地買収も終わり、新たな工事に向けての準備が進められております。周辺住民の安全安心のため一刻も早い完成を望むものでございます。播磨町の財政において、新島及び臨海部の企業活動を始めとす

の助成につきましては、助成金を大幅に増額し、支給時期も入学前の準備に対応できるよう配慮してまいります。

多くの方々にご利用いただいております「福祉会館」につきましては、老朽化が進んでいることから本年度大規模改修を行います。入浴施設の継続は難しく廃止せざるを得ませんが、乳児健診を始めとして、障がい者、高齢者などの相談コーナー、機能回復訓練、食事指導、文化・交流活動など多岐に亘る活動ができるようリニューアルいたします。さらに利用者の安全性と利便性を高めるために、昨年度取得した隣接地に駐車場と歩道を新設します。また、同時に老朽化が進んでいる「福祉しあわせセンター」「健康いきいきセンター」につきましても、大規模改修をいたします。

町内各地域においても高齢化に拍車がかかっております。普段からの見守りの必要性や災害時の支援対策等を講じるため、「悉皆調査」を実施し、高齢者の状況を把握に努めてまいります。医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体となって提供される「地域包括ケアシステム」構築のため、生活支援コーディネーターを配置し、地域支援事業を充実



した古代人のスケッチを題材とした「モニユメント」を設置いたしました。古代から未来へ人々の記憶に残る土山駅前として、整備してまいりたいと思っております。

大中遺跡に至る途中の「野添北公園」におきましては、四季を問わず町内外から多くの親子連れでにぎわっております。昨年、大型遊具の老朽化による更新のため、小学生や住民の方々にいくつかのプランをお示しし、アンケートを取らせていただきました。そこで採用された遊具を設置し、子どもたちが四季折々の自然を感じながら、想像力と冒険心を持って伸び伸びと遊べる場を提供してまいります。あわせて「あい公園」の駐車場ゲートも、利用しやすい

させてまいります。介護が必要とされる方への支援として、「地域密着型介護老人福祉施設」や「小規模多機能型居宅介護」を整備します。

現在、公共施設に設置している「物忘れ相談プログラム」にあわせて、がん検診やいきいきサロン、介護予防教室などの場で、「物忘れ検診」などを実施し、認知症の早期発見、早期受診につなげてまいります。また、「認知症初期集中支援チーム」による早期診断、早期対応を実施してまいります。

現在行っている「楽々くらぶ」につきましても、拡大し地域での互助を充実させてまいります。「障がいのグループホーム」新設に補助し、障がい者福祉の基盤を充実させてまいります。また、本年度は「播磨町障害者計画」などの策定を予定しておりますが、「播磨町地域自立支援協議会」などを活用し、さまざまな障がい者施策を実施する中で、共生社会の実現を目指してまいります。

東日本大震災から6年が経過としております。発生が確実視されている「南海トラフ」巨大地震に備えて、住宅等の耐震診断、耐震改修、建て替えなどを促進するため、町補助金の活用を図り、コミセンなどでも相談会を開催

方式に更新いたします。

高齢化が進む中、免許証返納につきましても、特典や補助制度などを設け促進を図っておりますが、同時に公共交通の充実としてコミュニティバスの運行を予定しております。長年多くの方々からご要望をいただいておりますので、できるだけ早期に実証運行を実現したいと思っております。

町内の道路等におきましても、バリアフリー工事を順次進めているところですが、本年は町道浜幹線道路西方面の歩道等において実施してまいります。また、橋梁等を計画的に定期点検を行い、長寿命化に向けて順次適切な補修を行ってまいります。

ため池につきましても、各地域でため池コミュニティを形成し、水利関係者や地域住民の協働で水辺空間の保全にご尽力いただいているところがございます。町としても防災や環境の観点から順次整備をしてきているところがございますが、本年は野添の4自治会に接する「ソウゴウ池」の改修を行い、安全安心で良好な自然環境の保全に努めてまいります。

全国的に問題となっております空き家対策につきましても、「播磨町空家等対策計画」に基づき、地域、自治会における不安要素の

人や環境にやさしく 快適なまちづくりを 進めてまいります

る商工業の発展は不可欠であります。昨年実施をいたしました新島内の緑化率の大幅な軽減、転入事業者への税制優遇措置などは、企業の方々が大変歓迎いただいているところでございます。その効果を得て、さらなる企業活動の活性化を期待しております。また、商工会におかれましても創業者支援や推奨品の認定など播磨町の産業の活性化にご尽力いただいております。今年も土山駅南に産学連携事業として実施されており、ます「イルミネーション」が、多くの人々に安らぎと感動を与えることを期待しております。

昨年、土山駅南の商業施設に開設した交流スペース「きつずなホール」は、日々子どもたちから高齢者まで多くの人々が集う広場となっております。住民だけでなく、駅利用者や近隣自治体との接点でもあり、まちの案内や情報提供の場としてさらに活用してまいりたいと思っております。また、土山駅から大中遺跡へと続く「あいの道」のスタート地点に、昨年いただいた「寄附」で製作いたしま